

分野(3)

ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

研 究 課 題 名 : COPD患者における日常生活活動性の定量評価法の確立に関する研究

調 査 研 究 代 表 者 氏 名 : 一ノ瀬 正 和

評価コメント

- ・COPD患者の日常生活活動性を客観的に把握するための試みを評価する。
- ・COPD患者におけるADL評価の定量化に、新たな加速度計により簡易性／再現性で見通しができたのは評価できる。
- ・COPDの患者の活動性を呼吸機能のみならず、このような日常の運動量を半定量的に測定して総合的に評価しようとする試みは新規性があり有用な研究である。
- ・可変圧による吸引による安静換気中の気流制限検出の試みは新規性がある。
- ・フライングディスクのCOPD患者のリハビリテーション効果もさらに検討を期待できる。
- ・低強度の運動を定量評価する手法を昨年より改善しており、評価できる。安静呼気流速制限評価法の開発とCOPDの日常生活活動性維持のためのアプローチに関する課題については、今後の研究に期待する。
- ・Actimarkerを用いてCOPD患者の活動評価の信頼性と有用性が検証できたということは評価できる。今後は、これを用いて患者のQOLの向上にどのようにして資するかということが課題となるのではなかろうか。
- ・Actimarkerの測定条件と活用の仕方を明確にし、COPD患者の活動性を客観的に評価し、活動性の改善に結びつけた成果は評価される。今後、症例を増やして、この方法による効果を一層明らかにすることに期待したい。
- ・今年度の発表では研究者も述べているように、安静呼気流速制限評価法の開発や競技へのエントリー基準についてはまだ途中経過であり、またリハ等の介入による結果が待たれる。研究は順調に行われており早期の論文化が望まれる。